

文化が活力を生み出す地域づくり

現代アートを用いたアートプロジェクト「もうひとつの京都」 の事業手法及び効果の検証

文化スポーツ部 文化芸術課

八巻 真哉

井上 正義

商工労働観光部 産業労働総務課

梅原 和久

京都大学（経営管理大学院）

若林 直樹

京都産業大（現代社会学部）

金光 淳

後見人

文化スポーツ部 文化芸術課長 大石 正子

想像力という〈資本〉

Imagination as a form of capital

京都府では、「海の京都（府北部）」「森の京都（府中部）」「お茶の京都（府南部）」エリアの歴史や風土、有形文化財や名勝、景観、豊かな自然や生活文化等を題材としたアートプロジェクトを展開してきました。今年度は、想像力を持つアートが新たな資本として、来るべき社会を変えて行く可能性をテーマにアートフェスティバルを開催します。地域文化と先端技術を組み合わせたデジタルアートによる空間演出や、地域文化資源発信型のアーティスト・イン・レジデンスを活用した現代アート作品展示によって、地域の文化資源の魅力を引き出し、国内外へ発信、観光インパウンドの拡充と地域経済の活性化につながる取組として実施します。

This year, Kyoto Prefecture will organize an art festival with the theme being the possibility that imaginative art holds to change the coming society as a new form of capital. By creating a space with digital art that combines local culture with cutting-edge technology, and by displaying contemporary art works utilizing the artist-in-residence who disseminate local cultural resources, we will bring out the charm of local cultural resources to be promoted in Japan and overseas. We will carry out this initiative that will aim to lead to an expansion of inbound tourism and the subsequent revitalization of the local economy.



in 京丹後

会期 | DATE
9月24日（金）～11月7日（日）
※金・土・日・夜のみ、11.4（木）は臨時公開
会場 | VENUE
京丹後市内
参加アーティスト | ARTISTS
SIDE CORE/石毛健太/
田中良佑/鷺尾伶/ELEN

3年目を迎える京丹後では、「風景掘り3-Landscape Rippers 3-」を開催。実際に何かを掘るのではなく、アートを通じて「風景の見え方を変化させてみよう」という意味での「風景掘り」。実際に京丹後の多様な風土を巡りながら、アーティストそれぞれが京丹後で巡んだ風景を鑑賞する構成にて展開します。

<https://alternative-kyoto.jp/exhibition/kyotango/>

in 宮津 天橋立

会期 | DATE
9月24日（金）～11月7日（日）
※昼夜ライトアップは先行販売、7.10（金） 9.30（木）
会場 | VENUE
天橋立公園内/天橋立公園内小天橋広場/
元伊勢屋神社/丹後国分寺跡
参加アーティスト | ARTISTS
平井真美子/長町市穂/原摩利彦/
白木皇/ヤノバケンジ/池田亮司

有形文化財や名勝、景観、豊かな自然等を題材としたデジタルアートの世界を体験できる舞台を日本三景の一つ天橋立エリアにて実施。「天（アマ）への架け橋」をテーマとして、光や映像、サウンドを用いたデジタルアートによる幻想的な世界に演出します。

<https://alternative-kyoto.jp/exhibition/miyazu-amanokashidate/>

in 与謝野

会期 | DATE
9月24日（金）～11月7日（日）
※金・土・日・夜のみ、11.4（木）は臨時公開
会場 | VENUE
与謝野町内（旧加那町役場庁舎）
参加アーティスト | ARTISTS
ANOTHER FARM

古来より植物薬が富まれ、高級絹織物の丹後ちりめんが地域を支え発展させ、今もなお、裾織りの首は途絶えることがない与謝野町。その与謝野にて、アーティスト、尾崎ヒロミ（スプツニ子）と中野真也とのコラボレーションから生まれたユニットANOTHER FARMが伝統的な技術と最新のテクノロジーを駆使した実験的な作品を発表します。

<https://alternative-kyoto.jp/exhibition/yosano/>

in 福知山

会期 | DATE
10月1日（金）～11月7日（日）
※金・土・日・夜のみ、11.4（木）は臨時公開
会場 | VENUE
福知山城公園/旧避難ビル
参加アーティスト | ARTISTS
三谷正/山中suplex/
ヒスロム、随所出展、詳細は通ってHPにてお知らせ

城下町として栄え、山陰、北近畿などへの交通の要所である福知山では、多様なアーティストによる「光」をテーマとした展覧会の実施や、地域の歴史や風土等を題材としたメディアアート作品を展示、創作活動を通じた地域とアーティストとの交流から、場所の文化資本に働きかける新たな機会の創出を図ります。

<https://alternative-kyoto.jp/exhibition/fukuchiyama/>

in 南丹

会期 | DATE
10月1日（金）～11月7日（日）
※金・土・日・夜のみ、11.4（木）は臨時公開
会場 | VENUE
南丹市内
参加アーティスト | ARTISTS
荒木悠/亀川景野/黒木結/
小山恭/山田泰江/手塚晃

昨年度に行った、「京都:Re-Search in 南丹」でのリサーチをもとに、地域の新しいアートドキュメントを作成する展覧会を実施します。参加アーティストは、昨年展覧師として招き、南丹で共に滞在した荒木悠を含め6組のアーティストたちによって展開。「まち（地域活動）」を引き入れ、「地域の新たな価値を見出す場やコミュニティ」を生み出す展開にしています。

<https://alternative-kyoto.jp/exhibition/nantan/>

in 八幡

会期 | DATE
10月1日（金）～11月7日（日）
会場 | VENUE
石湯水八幡宮（会期中終日展示）/
松花堂庭園・美術館（月曜休館）
参加アーティスト | ARTISTS
石川竜一/佐々木智穂/藤生恭平/
宮本一/鳥殺道浩

昨年度に行った、「京都:Re-Search in 八幡」でのリサーチをもとに、地域の新しいアートドキュメントを作成する展覧会を実施します。参加アーティストは、昨年展覧師として招き、八幡と共に滞在した石川竜一、鳥殺道浩を含め5組のアーティストたちによって、その「場所」に添い、地域性や歴史性をより鮮明にし、添えていく作品を発表します。

<https://alternative-kyoto.jp/exhibition/yawata/>

開催概要

会 期：2021年9月24日（金）～11月7日（日）

※エリアごとに開催期間が異なります。ご注意ください。

実施市町村：京丹後市／宮津市／与謝野町／福知山市／南丹市／八幡市

主 催：京都府／「海の京都」天橋立地区協議会／京都:Re-Search実行委員会／

京都文化カプロジェクト実行委員会／福知山イル未来と実行委員会

助 成：令和3年度 文化庁 文化資源活用推進事業費

関連イベント：キックオフフォーラム「想像力という〈資本〉—来るべき社会とアートの役割—」（オンライン開催）

URL：<https://alternative-kyoto.jp/>

R1～R2 京都府企画・運営のアートプロジェクト 効果検証の概要

①研究の背景

ア、現状分析

- ・アンケートおよびインタビュー、課題の抽出
- ・二つの課題

②次の施策に向けた視点の提示

- ・国内外の先進事例の紹介

③具体的な施策の提案

- ・戦略的施策の提案

① 研究の背景

ア、現状分析 効果検証の対象と手法

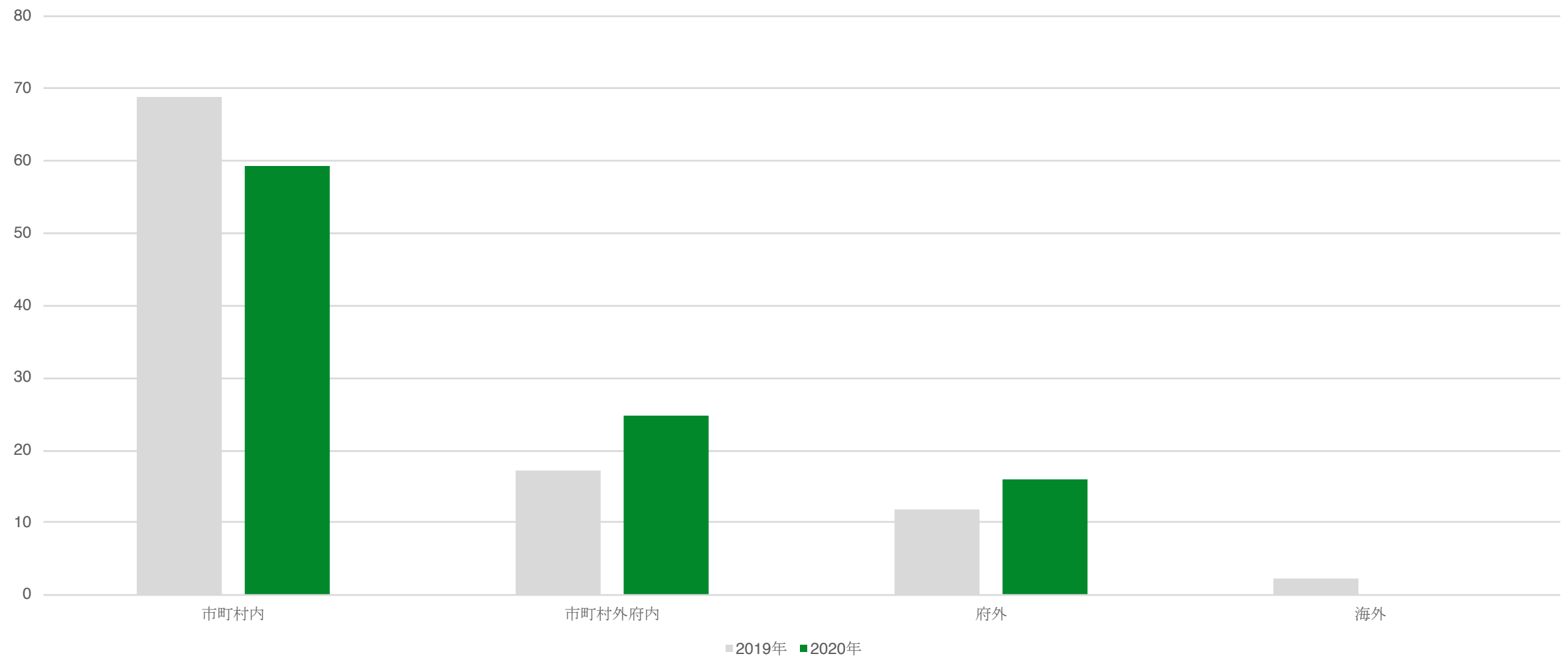
1、R1-R2 アンケート

開催地	開催日	観客数*	回収数	回収率
京丹後	10/23-25,30-11/3,6-8.13-15(合計14日)	3,132	340	10.86%
和束	10/30-11/1,11/6-8,13-14(合計9日)	1,006	32	3.18%
合計	のべ23日	4,138	372	8.99%

2、R2 インタビュー

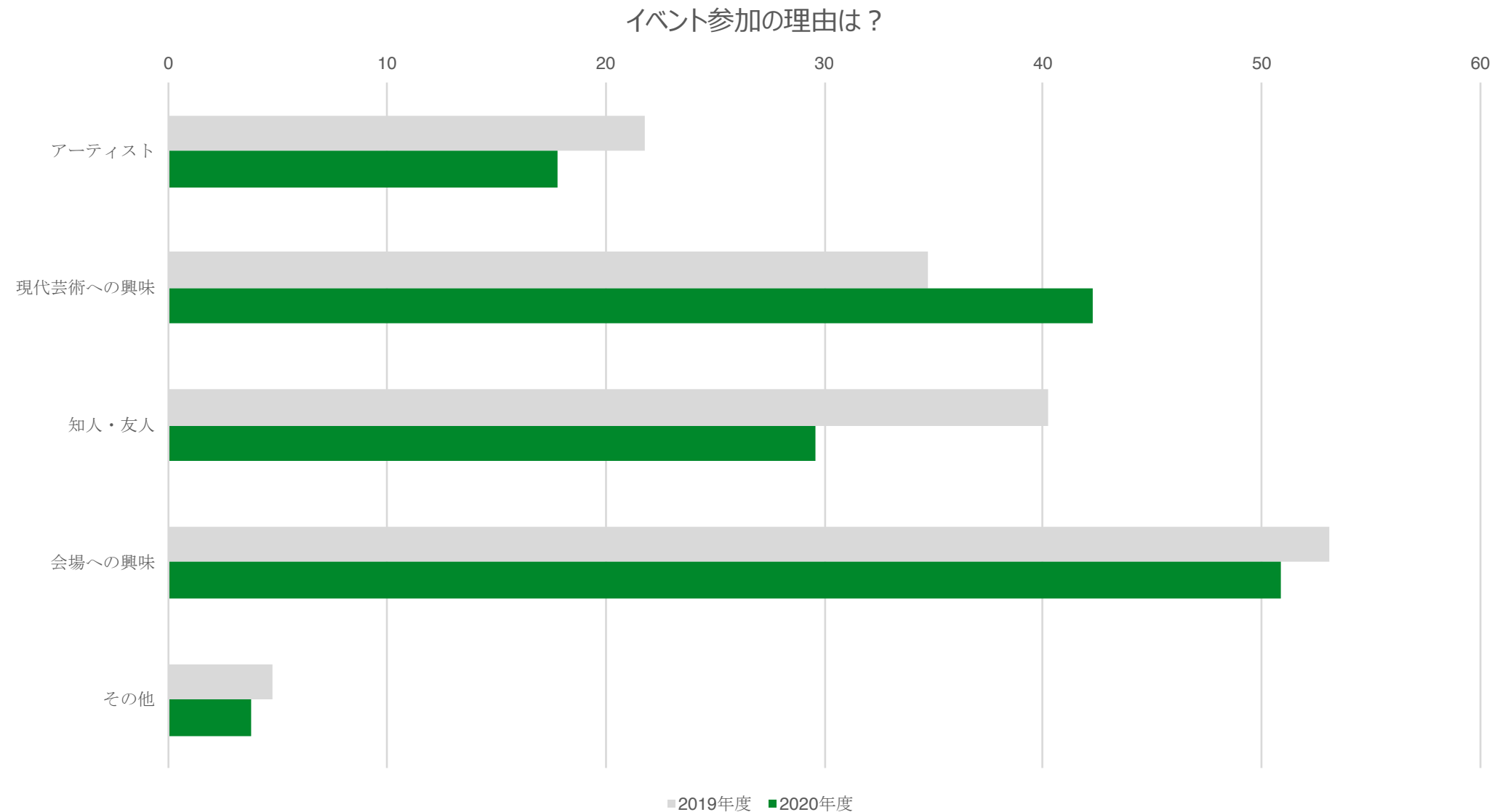
6 人（地域アートマネージャー2名、京丹後参加
アーティスト：2名、和束参加アーティスト：2名）

R1-R2 アンケート結果（１）訪問者の居住地



- ・府内別市町村および府外からの訪問者の割合が前回に比べて増加
⇒他地域への知名度が伸びた可能性
- ・海外からの訪問者がゼロ（アンケート上）
⇒COVID-19感染拡大の影響

R1-R2 アンケート結果（2） 訪問の理由



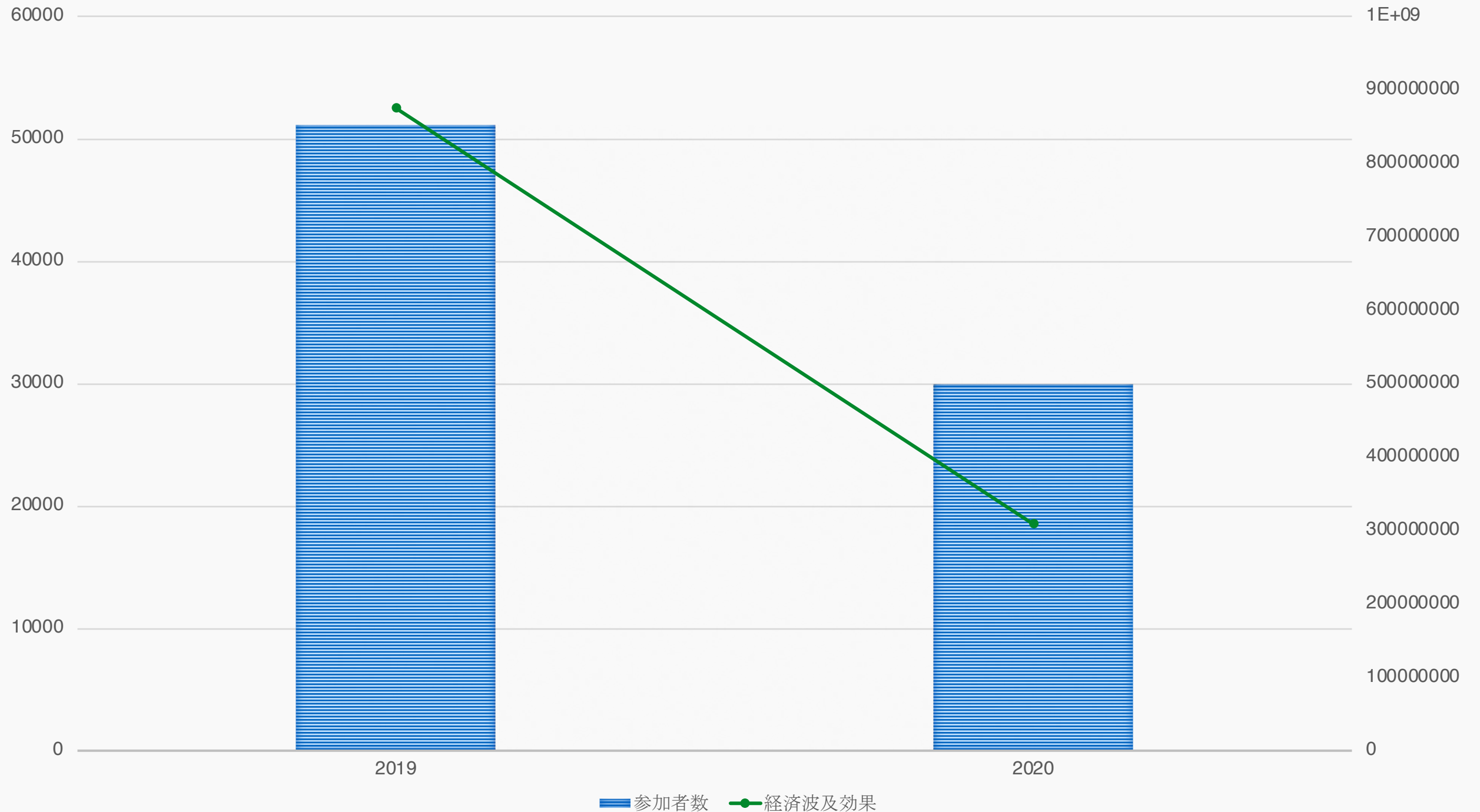
- 1位は変わらず「会場への興味」：普段訪れない場所が開かれることへの関心が高い
- 「現代芸術への興味」が以前より伸び、「友人・知人」を抜いて2位に上昇

参加者数（人）

2018-2019 参加者数・経済波及効果

経済波及効果（千円）

👉 **COVID**でインバウンドがほぼ消えても底堅い



- ・参加者アンケート、インタビューからも、当初のコンセプトの達成を確認
（高い水準の作品制作、地域文化資源の再発見、地域住民との継続的な関係形成）
- ・他方で地域づくりの視点からは、住民の主体性と、人材の育成が必要なフェーズ

R2 インタビュー結果

- 当初のコンセプトにつき一定程度の達成
 - ・高い水準の作品制作、地域文化資源の再発見、
地域住民との継続的な関係形成
- 戦略的課題の表出
 - ・芸術祭開催という面で深刻になりつつある人的リソースの不足
(ボランティアサポーターの不在、地域アートマネージャーの対応範囲の拡大、
地元自治体のコミットメント、地域住民からの積極的協力)
 - ・地元住民等の主体性（リーダーシップ）の発揮
 - ・今後の戦略的なビジョン
- 現場運営上の課題
 - ・（アーティスト）制作・滞在資金および情報発信不足

イ、課題の抽出



課題 1

地理的な不利を克服するための、
地域の多様なパートナーとの
戦略的な連携強化



課題 2

展覧会／芸術祭としての
リソースの不足

京都府の文化芸術の取り組みにおける今日の課題：

1. 国際的な動向に比べ、社会的主題に乏しく他分野との接続が淡い。
2. 芸術祭（祝祭）のもたらす効果が短期的であり、住民のオーナーシップの醸成に至っていない。他方で持続的な運営、継続的な企画の立案・実施のための手法・人材も十分ではない。
3. 地域でもともと持続的に活動していた人との関係づくりにはアートだけでなく、建築やデザインなど広い間口の企画が必要である。

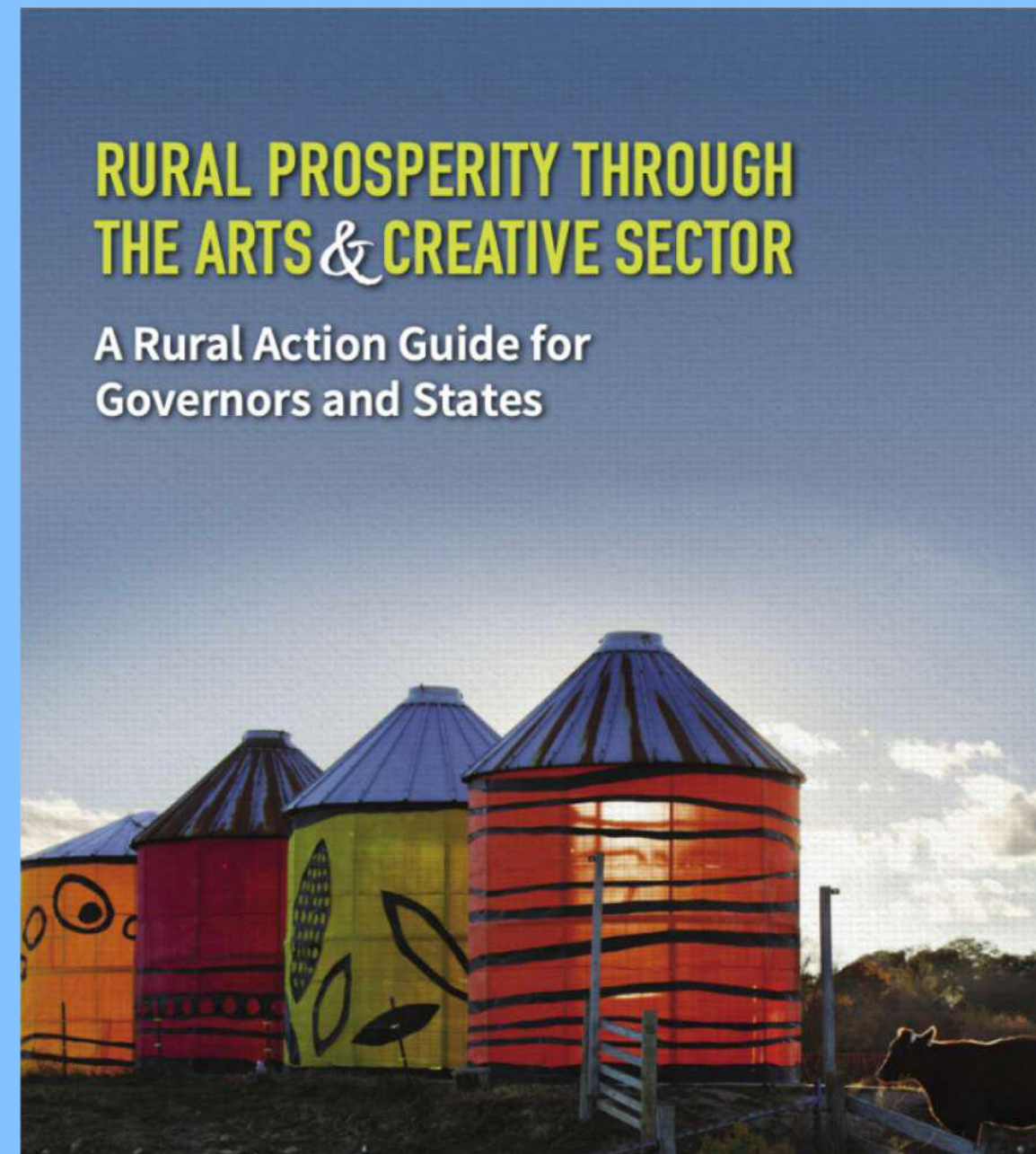
⇒同じ「もうひとつの京都」をブランドとする「観光地域づくり」事業と車の両輪として働くような、住民主体の領域横断的な活性化に文化芸術分野から貢献できていない。

国内外の先進事例 地方部における 「クリエイティブ・プレイスメイキング」

クリエイティブ・プレイスメイキング＝意図的にアートを中心に据えて、地域社会発展のための、価値観に基づいた（＝人間中心の）アプローチとして部署横断的に創造的な場づくりを行う、21世紀型の「総合計画」。

古くは都市（再）開発の方法論だが、2010年から10年間の米国での施策の結果、地方部でもその有効性が確認された。

全米州知事協会は2019年「芸術と創造部門を通じた地方の繁栄のためのアクションガイド」（右）を刊行し、行政が「地方のクリエイティブ・セクターに対してリーダーシップを発揮する」ことを、これからの時代の地方繁栄への有力な手法として奨励。



クリエイティブ・プレイスメイキングの目的と特徴

1. **問題解決型アプローチ**：地域社会を勇気づけ、創造的な解決を実現するために、プロセスと最終的な結果を通して様々なアートを意図的に統合する。(Frenette 2017; ArtPlace America 2018)
 2. **部署・組織を超えた協働**：部署間、組織感の縦割りを越えてつながるための横断的な参加を促進する。(Kresge 2018; Markusen and Gadwa 2010)
 3. **公平性重視**：社会的弱者や貧困など社会的・経済的格差から生まれる問題に向きあい積極的に活動する。(Markusen and Gadwa 2014; LISC 2018; NEA 2018)
 4. **地域社会主導**：場所をベースにした、地域に根ざした活動。(ArtPlace America 2018)
 5. **アイデンティティ**：地域・場所のユニークさ、場所の感覚、場所の中で保持されているアイデンティティを祝福する。(Project for Public Spaces 2017)
- ※非・マーケティング的、非・芸術至上主義的、歴史や人を中心にする

② 次の施策に向けた視点の提示

「ALTERNATIVE KYOTO - もうひとつの京都」
を契機とした

「京都府域でのクリエイティブ・プレイスメイキング」



「京都府域クリエイティブ・ルネッサンス（仮）」

クリエイティブな活動の場に着眼した領域横断的な「場作り」
＝クリエイティブ・プレイスメイキングの手法の導入による、
クリエイティブな活動を中心とした地域住民主体の地域活性化

観光や食、農林水産業との連携



アイオワ州ではワイン産業の急成長とともにワイン目的の訪問者も急増した。

世界的なクラフトビールブーム。土地の歴史と結び付けたブランディングは一般的になっているが、「アーティスト・レジデンシー（アーティスト・イン・レジデンス）」のコンセプトを利用して、世界の様々なアーティストの支援と発掘、また個性的なブランディングに成功している例もある（カナダの「コレクティブ・アーツ・ブルーイング」）



アルコールに限らず飲食をアートととらえることで創造的な場づくり・観光地域づくりの中核になってくる。京都府内には醸造所だけでなくホップ生産地もある。

食とアートの体験型施設

「うぶすなの家」

1924年築、越後中門造りの茅葺き民家を「やきもの」で再生しました。1階には、日本を代表する陶芸家たちが手掛けたいろり、かまど、洗面台、風呂、そして地元の食材を使った料理を陶芸家の器で提供する作品兼レストラン。2階は3つの茶室から成るやきものの展示空間。温もりのあるやきものと茅葺き民家、集落の女衆たちの澆刺とした笑顔とおしゃべりが人気を集めています。

(写真・文＝公式サイトより)



「食」を地域アートセンターの中心的な活動の一つに

ジョージア州メーコンでは空き家が目立つ地区を「芸術村」として再生させた。州外から質の高いアーティストを呼ぶだけでなく、地域の声をヒアリングするスタッフを雇用して住民の声を聞き、地元のクリエイターを発掘・育成した。

地元の人達の持っている才能やスキルをまとめて「文化資産マップ」を作成。その結果多くの地域住民が料理好きであることを知る→地元の公民館を改装してアートセンターにした際に、料理のアートスクールを併設。結婚披露宴なども開催できるようにした。また近隣の老朽化した家を修復してアーティストの住宅として提供。地元の病院などとも連携。



(写真：公式サイトより)

市町村との連携でアート・クリエイティブ体験を軸とした観光地域づくりに成功¹⁸

かつてカントリーミュージックの名曲が生まれた米国ヴァージニア州。

州内南西部の4都市、19の郡を通る約500kmの風光明媚な道路を「クロックドロード（曲がりくねったみち）」として指定し、沿線地域の訪問者がカントリー音楽やオールドタイムのダンス音楽などのテーマ型の体験やお土産の購入をきっかけに地域文化の体験・観光ができるように多くの自治体が連携して施策が行われている。

旅番組などでも取り上げられ、全国的に人気のルートとなり、アートをテーマにした観光地域づくりの成功例として知られる。



アート起業家の支援： 芸術と文化のためのシードキャピタルの提供

アーティスト・クリエイターに、
単に助成金のお機会を与えるだ
けでなく、伴走型の支援を行い
起業を促進する。

起業のトレーニングやビジネス
コーチング、一定のコミットメン
トを条件とした開業資金の補
助など、地域での起業に向け
た総合的な支援を実施。



地方芸術祭でのボランティアサポーターの活動

- ・地域と芸術祭／アーティストとのつなぎ手・盛り上げ手
- ・交流人口の増加に直接的に寄与
- ・運営の円滑化の側面からは単純なスタッフ増員に比べて効率が悪いが、地域の主体性や理解の増進の面では他で代替しがたい効果をもたらす
- ・芸術祭の効果を期間外も継続させる
- ・地域のクリエイティブ人材の発掘・育成



③ 具体的な施策の提案

京都府文化力による未来づくり2.0

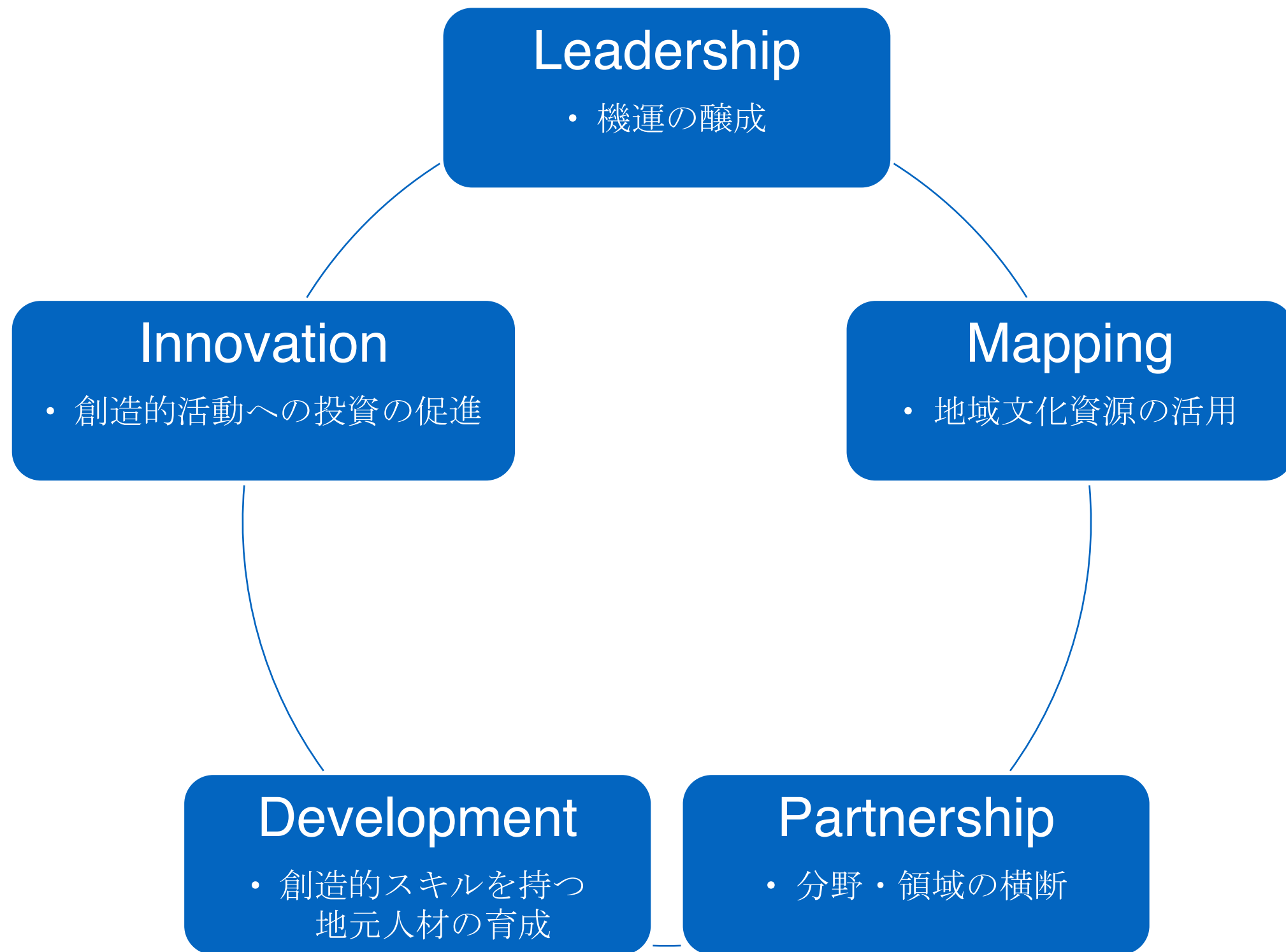
京都府地域文化創造促進事業



京都府文化力による未来づくり 3.0

京都府域クリエイティブ・ルネッサンス

人々の創造性や文化的関心のポテンシャルを引き出し、新たな社会の構築に貢献するための文化芸術への総合的な公共投資



「コラボレーション」「オープン」「ボトムアップ」

5方向の役割

- 1. 地域社会に利益をもたらすために、創造セクターに対してリーダーシップを発揮する。**
- 2. 既存の地域の文化資源を活用する。**
- 3. 文化的・創造的パートナーシップのインフラを構築する。**
- 4. 創造的なスキルを持つ地元の人材と人的資本を育成する。**
- 5. 投資しやすい環境を作り、イノベーションを促進する。**

アクションプラン	
1	- 各地域におけるクリエイティブ・セクターの経済的影響を定量化し、客観的に伝える。 - 創造セクターが触媒する、ビジョンの設定を含む創造的な構想を計画し、具体的な目標を決定する。 - 自治体に芸術や文化に関連した環境を整えるためのノウハウを伝え、それを実現できるようにする。 - 技術支援、ピアラーニング交流会、および積極的な協働により、地方におけるクリエイティブ・プレイスメイキングの構想を支援する。これらのベストプラクティスを広く共有する。
2	- 府域内各地域の文化資産（文化施設・活動拠点、文化的価値ある場所）を地図化して利用可能にする。 - 創造的なコミュニティのリーダーを結びつけ、お互い学び合い、集合的に資源を利用できるようにする。 - 地域ブランディングを強化し、訪問者、住民の起業家や経営者が地域を再考するのに役立つようにする。 - 地方の観光産業の成長と発展に地域の文化遺産に関わらせる視点を推進する。 - 創造的セクターとプレイスメイキングの構想を、より広範な地域計画と地方部の中心街の開発に組み込む。
3	- 利害関係者を集めて、各セクターが何をもたらすことができるのかを学ぶ。 - クリエイティブ部門を既存の各部門の戦略と計画の取り組みに統合し、それらの取り組みを経済開発、住宅、地域の総合計画などのより大きな政策目標の中にも組み込む。 - 創造的な活動を、同じような目的を持つ既存の民間の取り組みと連携させ、官民パートナーシップの種を蒔き、資金や投資を活用する。 - 創造的なセクターの活動に地域社会や民間財団を関与させる。 - 創造セクターの目標達成に使える資金、技術、モデル等を提供する国の支援策を利用する。

アクションプラン

- 4
- 文化芸術スキルを持つ起業家を支援することで、文化芸術を基盤とした起業家の生態系を強化する。
 - クリエイティブ起業家と、領域横断的な利害関係者のネットワークを育成する。
 - 地域の高等教育機関が、創造性に基づく経済成長の中心となるよう奨励する。
 - クリエイティブな仕事につくことの戦略的な利点を明確にする。
 - スタッフが地元クリエイターへの働きかけと関与を行うことができるようなプログラムを設計する。

- 5
- 地域または小さな地域社会の文化的・創造的な機関にターゲットを絞った投資を行う。
 - 議会に、各地の芸術構想のための予算を割り当てるように要求する。
 - 芸術起業家のための中小企業支援など、芸術と文化のためのシード資本を提供する。
 - 地域開発の融資や助成金の対象となるカテゴリーとして、創造セクターのビジネスおよび構想を際立たせる。
 - 新たな作品を制作するためのスタジオ、非営利のギャラリーおよび劇場などのスペースへ助成する。
 - 創造セクターを強化するための独自の税制措置を作る。例えば歴史的建造物への寄付の一部税額控除等。
 - クリエイターが起業家になるか、またはクリエイターグループが社会的影響力のあるNPOとして、法人化や維持をしやすくするような規制改革を開始する。

もうひとつの京都
京都府域クリエイティブ・ルネッサンス 3つの特徴



- 経済的な発展やアートシーンの充実だけではなく、コミュニティの未来を創造的に描き、形作る活動を支援する
- アートや創造的な発想・活動が、コミュニティの問題解決や人間関係の構築、文化の形成に役立つことを人々が認識するようにデザインする
- アーティスト・クリエイターはファシリテーターやヒーラーとして、人々が自らの創造性を発揮できるようサポートする

総合的なクリエイティブ・プレイスメイキングと 環境・制度の整備

観光や食、農林水産業との連携



- ・世界的なクラフトアルコールブーム。
クラフト飲料は創造的な場づくりと相性が良い。丹後にはビール醸造所だけでなくホップ生産地、ワイナリーもある。他の地域には日本酒醸造所が点在する。
- ・文化芸術活動と地元醸造所の連携は双方の裾野拡大や地産品の認知向上に寄与する。
- ・他地域においても、産業との連携は戦略的・府内横断的な取り組みが有効。



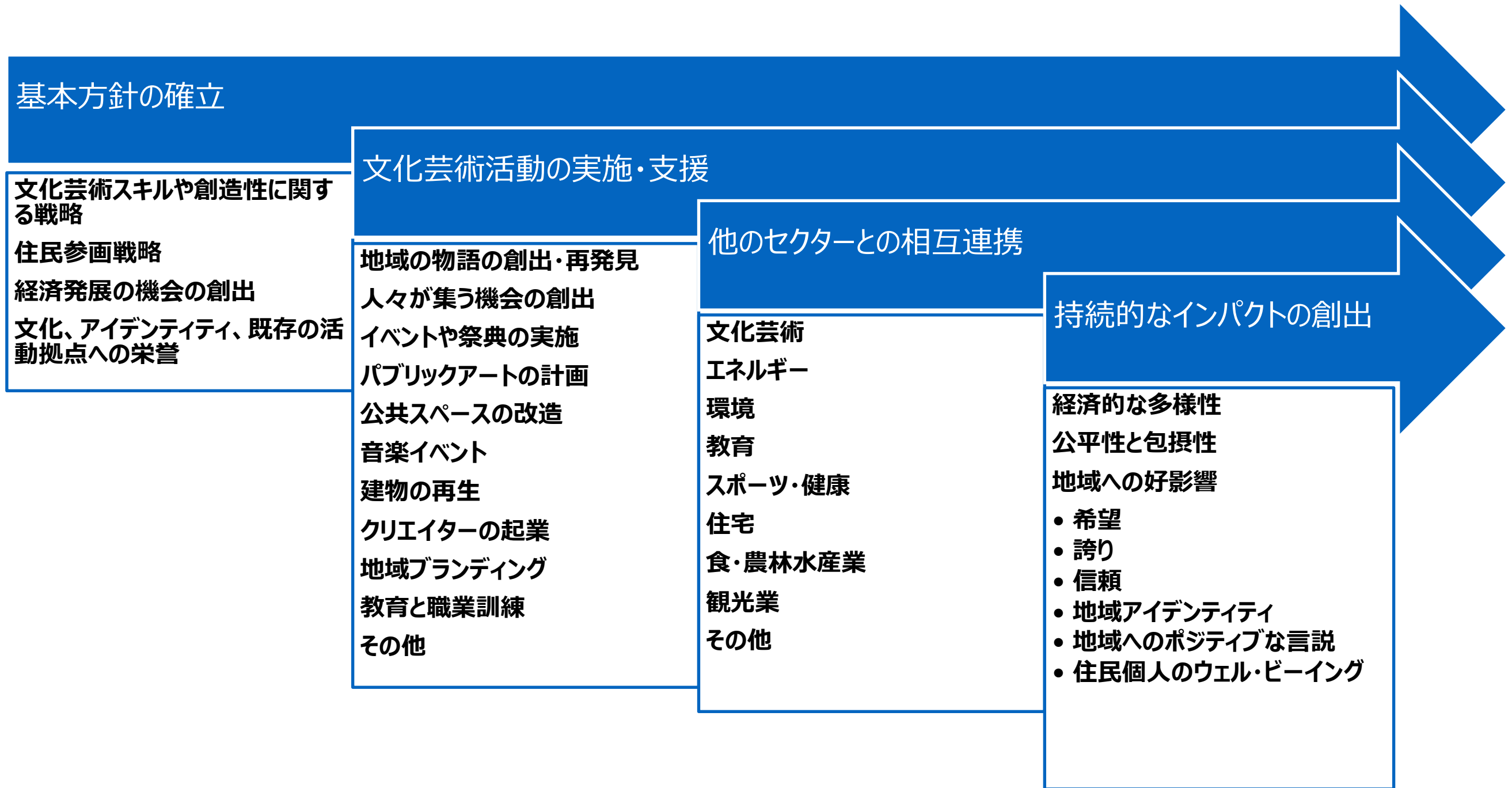
創造的な起業家への 起業支援

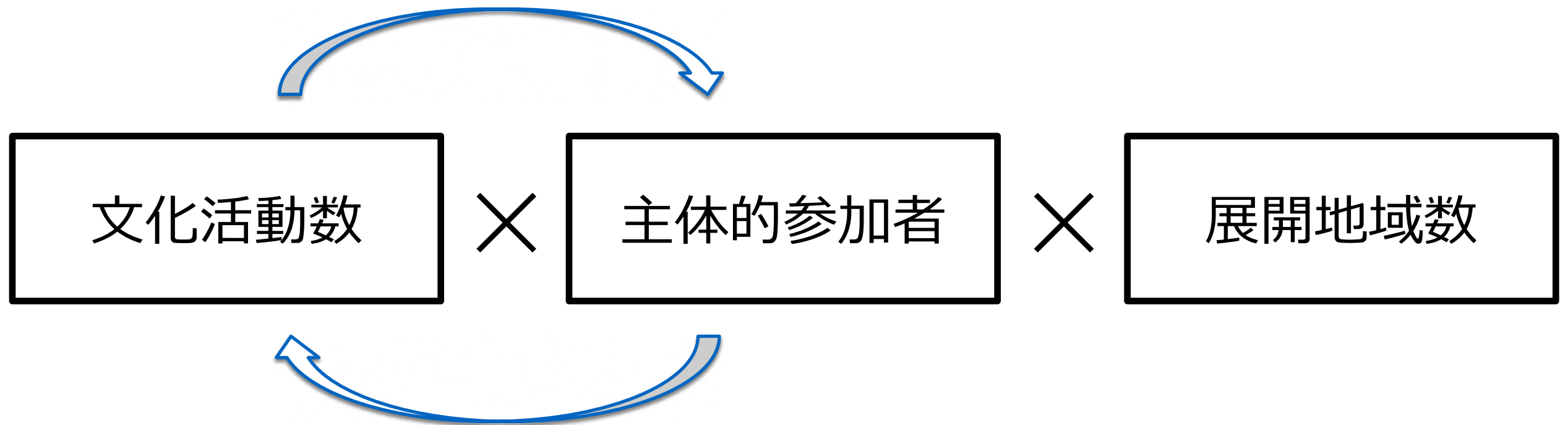
- ・クリエイティブ起業家のためのスモールビジネス（ベンチャー）支援など、芸術と文化のためのシードキャピタルを提供
- ・創造的な起業家に助成金の機会とともに起業のトレーニングやビジネスコーチング、一定のコミットメントを条件に開業資金の補助を行うなど、地域での起業に向けた総合的な支援を行う。



Kyoto Women's
Entrepreneur



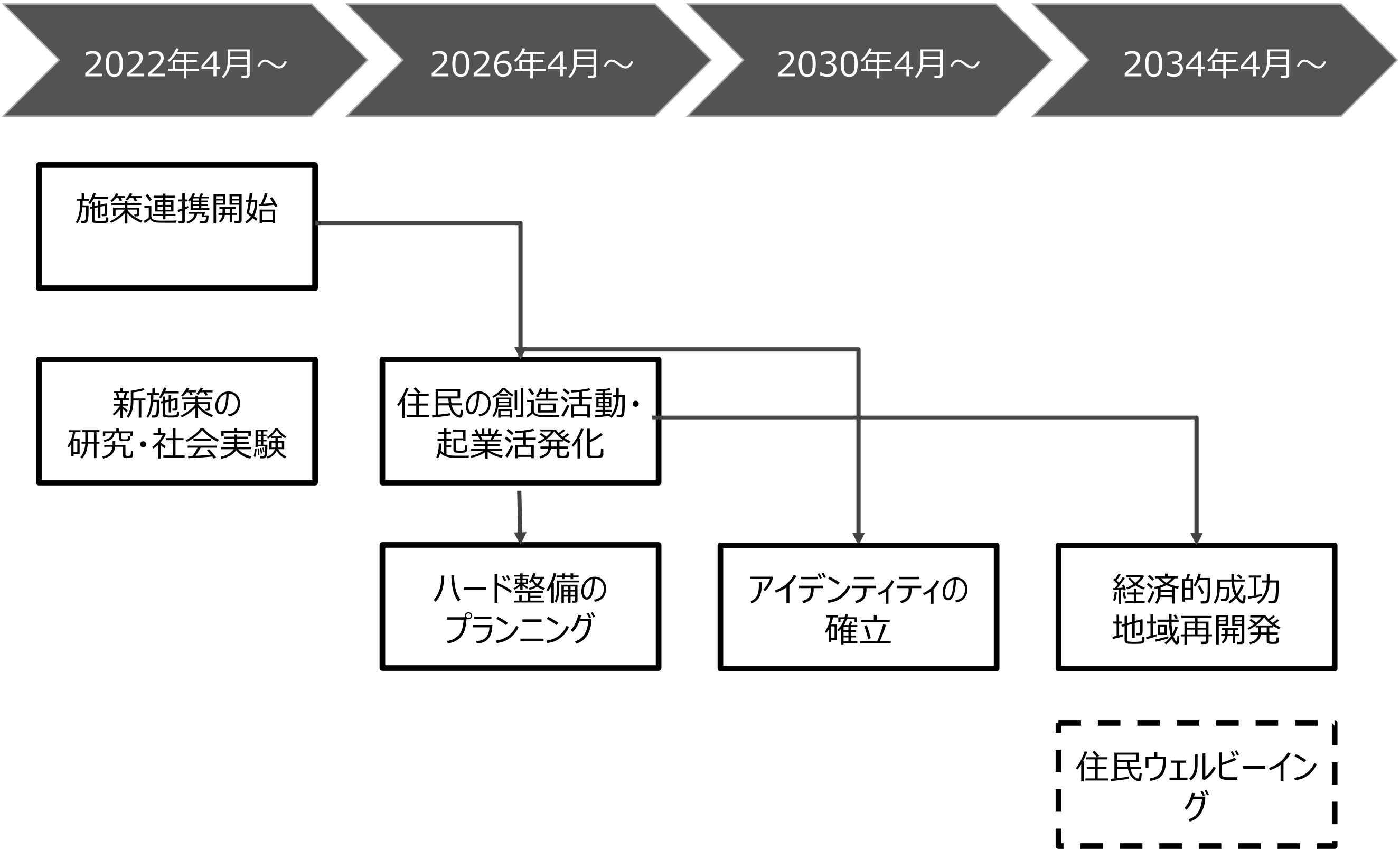




地域への貢献と主体的参加者の拡大を織り込んだ文化活動を実施し、その参加者が同様の新たな文化活動に寄与することで裨益者が持続的に拡大する。

※府は地域・セクター間のバランスをリードするとともに、成功事例を出すため、
取り組み数自体が確保されるよう促進施策を継続する。

※取り組みの名称等は地域の文脈と主体性が優先されるよう、
助成プログラム名以外の固有名詞は使用しない。



1. 地域社会に利益をもたらすために、創造セクターに対してリーダーシップを発揮する：11,750千円

- 文化経済規模に関する経済指標の再集計：2,000千円
- クリエイティブ・プレイスメイキングのマニュアル作成：2,000千円
- 地域での技術支援の勉強会・ピアラーニング交流会の実施：250千円×25市町村=6,250千円
- 今後の展開のための情報の収集・分析および事業評価：1,500千円

2. 既存の地域の文化資産の活用：69,650千円

- 地域の新たなストーリーの発掘・地域文化資源マップの作成：1000千円×4広域振興局=4,000千円
- 市長会／町村会との連携によるリーダー向けの文化芸術による地域振興についての研修：500千円
- 各地域のブランディングの推進にあたり地域の文化遺産を関与させる事業についての研究：800千円
- 京都府域展開アートフェスティバル「ALTERNATIVE KYOTO-もうひとつの京都-」の開催：55,000千円
- 新・世界遺産事業、四季の彩事業：9,650千円

3. 文化的・創造的パートナーシップのインフラ構築：38,000千円

- 地域アートマネージャーの役割強化：8,000千円×4広域振興局=32,000千円
- 経済振興、住宅開発における創造的な活動に関する官民パートナーシップの構築：1,000千円
- 創造セクターの活動への地域社会や民間財団の関与の増大に向けた調整：5,000千円

(以下、次頁に続く)

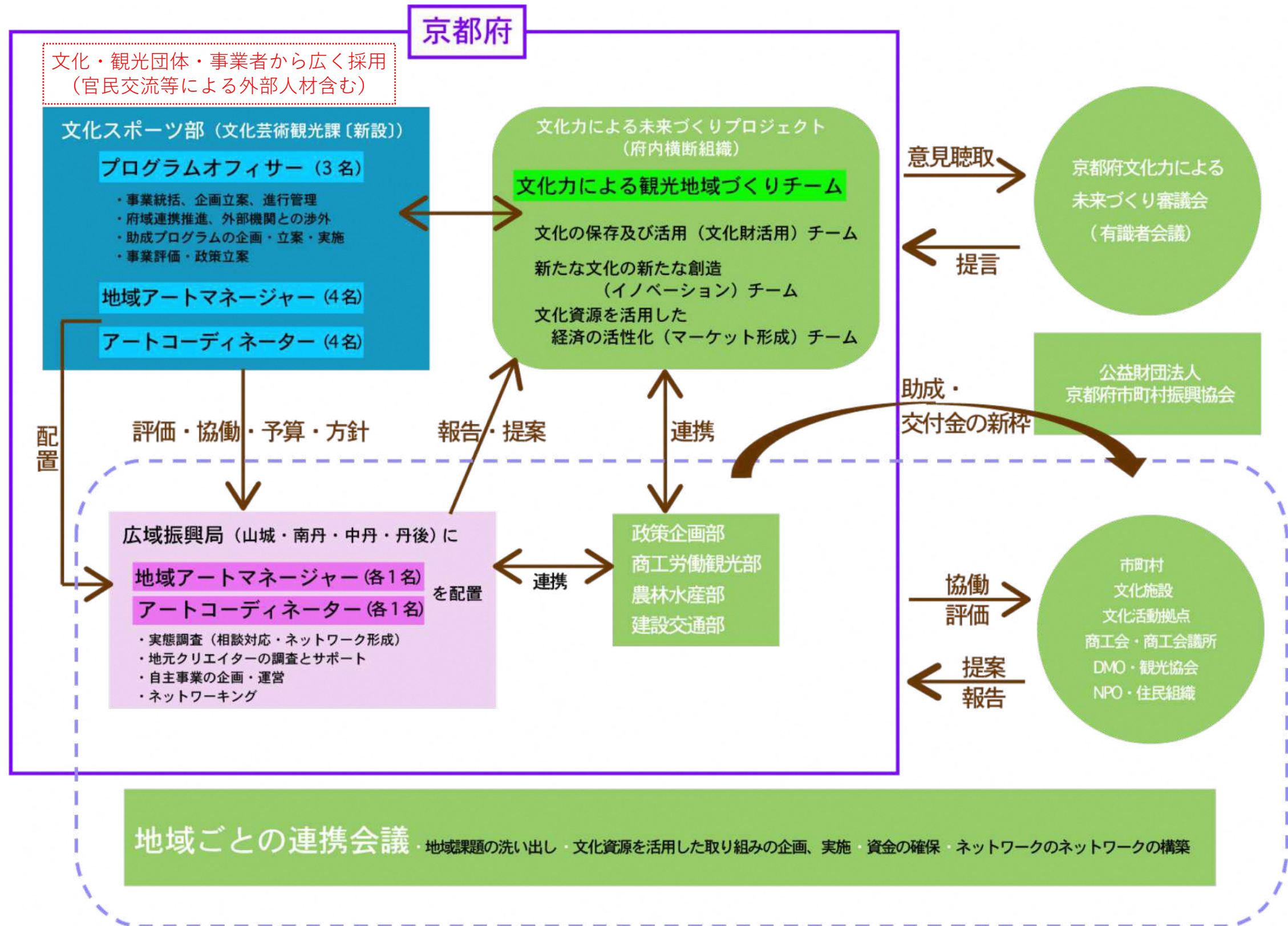
4. 創造的なスキルを持つ地域人材・人的資本の育成：103,000千円

- 文化芸術スキルを持つ起業家を支援することで、文化芸術を基盤とした起業家の生態系を強化するため、クリエイティブ起業家と、領域横断的な利害関係者のネットワークを育成する。例として地域交響プロジェクト（政策企画部）の専門家派遣制度や協働コーディネーターとして文化芸術スキルを持つ人材を紹介できるようにする：3,000千円×4広域振興局=12,000千円
- 地域の大学・短大・府立大学校等が、創造性に基づく経済成長の中心となるよう奨励するプロポーザル助成（地域交響プロジェクトの「学生×地域つながる未来プロジェクト」の中で創造性重点枠を設けるなど）：300千円×10件=3,000千円
- 芸術祭など、地域アートマネージャーが地元クリエイターへの働きかけと関与を行うことができるようなプログラムの設計実施。（大京都芸術祭の「地域クリエイター」など）：2,000千円×4広域振興局=8,000千円
- 地域単位で応募可能な文化芸術を通じた地域貢献プログラムへの助成（京都版Our Town）：平均4,000千円×20件=80,000千円

5. 投資しやすい環境の整備を通じたイノベーション促進：40,000千円

- 中小企業総合支援課と連携し、小さな地域社会での文化的・創造的な起業をターゲットに追加し、合わせて補助金も追加する。
→起業支援事業費補助金の「地域活性化関連」の枠の拡大または新枠：2,000千円×10件=20,000千円
- 創造セクターのビジネス・構想、地域開発の融資や助成金の対象カテゴリーに明記していく。
- 議会に、各地の芸術文化構想のための新規予算を割り当てるように要求する。
- 新たな作品を制作するためのスタジオ、非営利のギャラリーおよび劇場などのスペースへの助成：2,000千円×10件=20,000千円
- 創造セクターを強化するための独自の税制措置を作る。例えば歴史的建造物への寄付の一部税額控除等。
- クリエイターの起業、または社会的影響力のあるNPO化をやすくするような規制改革を開始する。
→国の非営利法人制度とは異なる、府独自の文化芸術・地域づくり系の任意団体や中小法人への認証制度や府税の減免の検討など。地域交響プロジェクト交付金交付団体について認証不要とすることも考えられる。

文化芸術観光課の新設



地域ごとの特性があるため統一できない指標も存在する（例：新規定住者の増加が好まれる地域とそうでない地域がある）が、ロジックモデルに従い定期的・定量的に測定していくことが可能な指標も数多くある。

- 住民が地元のビジネス・文化へ持つ愛着度
- アーティストと住民のネットワーク
- 住民のアーティスト・クリエイターへの評判の向上
- クリエイティブな起業の増加
- 文化的価値を持つ場所・建造物のリニューアル
- 交流人口
- 観光客入込数
- 地域組織からのクリエイティブな取り組みに対する助成申請数

既に先行事例でロジックモデルが整理されているため、初年度事業の一部で研究し、京都型の事業モデルと評価指標を確立する。